

### 1.3 観光の開発 (1) 観光資源の開発と観光振興

小笠原諸島における観光にとっての最大の地域資源は、豊かで貴重な自然環境であり、都や小笠原村では、エコツアーなどを基軸とした観光を推進している。

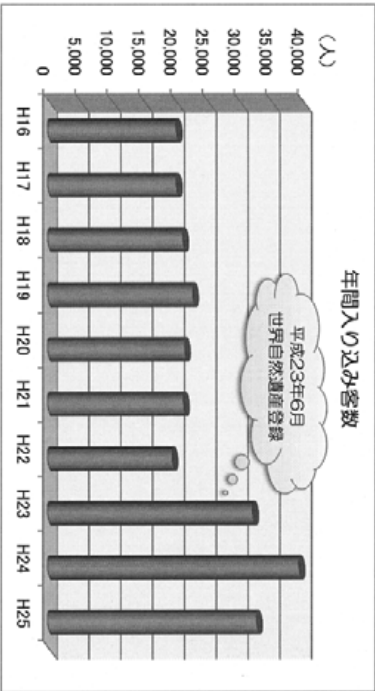
平成23年6月の世界自然遺産登録を受け、教育旅行及びシニア層の入り込みは一時的に大きく増加したが、落ち着いた動きを取り戻しつつある。一方、外国人観光客については、遺産登録の前後で大きな変化は見られない。

このような状況の中、小笠原諸島では、世界自然遺産としての貴重な自然環境の保全と観光利用の両立を図る視点を立ち、国、都及び小笠原村とともに、魅力の発信と合わせた普及啓発活動を進めている。

また、遊歩道や都市公園等の整備や維持管理により、観光客が自然を楽しむための環境整備が行われている。都においても、小笠原村の実施する扇浦・小田地区や奥村遊歩道整備などの観光施設整備事業に対して補助を実施し、観光資源の開発を支援してきた。

#### 現状と課題

- 関東以外の地域からの新たな観光客誘致を検討するなど、観光客の開拓に向けた取組が必要である。
- 他の離島地域と同様に、雨天時対策の観光メニューの開発が必要となっている。
- 遊歩道等の新規設置に当たっては、開発による自然環境への影響を配慮するとともに、後年度の維持管理を含め慎重に検討することが必要である。
- 外国人観光客の規模自体が小さいことから、島内の多言語化が進みにくい状況である。



※年間入りの込み客数：おがさわら丸乗船客数（観光・仕事を目的とする人数）及びクルーズ船による乗船客数

#### 今後5年間の取組

- 小笠原諸島の魅力をホームページをはじめ、観光協会と小笠原村観光局との連携により、様々なイベント等を通じて継続的に発信することにより、観光客誘致につなげていく。【村】
- 受け入れ環境の充実及び魅力の発信等に資する取組を進める。【都】
- 地域の意向を踏まえた、体験メニュー等の柔軟な提供方法や観光客の効果的な受け入れ環境について検討していく。【村】
- 小笠原村が実施する遊歩道設置等の観光施設整備事業を引き続き支援して、観光資源の開発を進めていく。【都・村】
- ガイドの育成など観光を担う人材の確保・育成に当たっては、新たに創設された産業振興促進計画認定制度の活用について検討を行う。【村】

#### 年次計画

具体的な取組	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
受け入れ環境の充実	継続				
魅力の発信	継続				
観光資源の開発	継続				



父島を出航するおがさわら丸と見送る地元船団  
(提供：公益財団法人東京都島しょ振興公社)

コラム：小笠原村観光局

小笠原村観光局は、従来からの旅行会社とのパイプを維持しながら、メディア対応及びイベント実施により、小笠原の観光の活性化に寄与することを目的に、小笠原村の資金拠出のもと、本土の東京諸島観光連盟内に設置された。小笠原村観光局では、SNS、スマートフォンアプリ並びに公式キャラクターの「おがじろう」及び「メグロー」を活用した新しい試みを展開しているとともに、本土にあるという機動力を生かして、小笠原のセールス・PR活動を行なっている。

おがじろう



(提供：小笠原村観光局)

【活動内容】

- 1 メディア対応
- 2 本土でのイベント実施・対応
- 3 教育旅行の誘致活動
- 4 旅行会社への営業活動
- 5 ショッピング・各種団体への営業活動
- 6 個人のお客さまへの観光案内

1.3 観光の開発  
(2) 観光業と他産業の連携強化

振興開発事業の各種調査を行った、「地域資源の活用に向けた基礎調査」や「地域資源を活用した土産物等の事業化検証」により、島内において地域資源を活用した商品開発が加速するとともに、デザイン性を意識した商品づくりの機運も生まれている。小笠原村では、観光の振興を図り、多くの観光客が訪れることにより、農業・漁業の第一次産業、生産品の加工を行う第二次産業、流通・販売・観光・サービス業の第三次産業等の連携が促進されることにより、各産業が発展することが可能となるため、観光産業を柱とする観光立島を目指している。



例) 小笠原島漁業協同組合「まぐるかん」

- 菓製商品（要冷蔵）の常温販売に向けた技術支援
  - ・販売可能な試作品まで到達
  - ・赤字脱却に向け、販売単価の再設定を提案
  - ・レトルト機械導入に向け、組合内での検討を継続

現状と課題

- 土産物の地域内消費が十分に行き渡っていない上、土産物を生かした特産品の開発も多くないことから、観光客が求める多様なニーズに対応できていない。

今後5年間の取組

- 観光業と第一次産業との連携を強化し、小笠原村を感じられる魅力ある特産品の開発の促進や、土産物の村内流通の円滑化を図るなどの小笠原村の取組に対して、助言及び技術的支援を行う。  
【都・村】

年次計画

具体的な取組	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
特産品の開発、土産物の村内流通の円滑化等			継続		